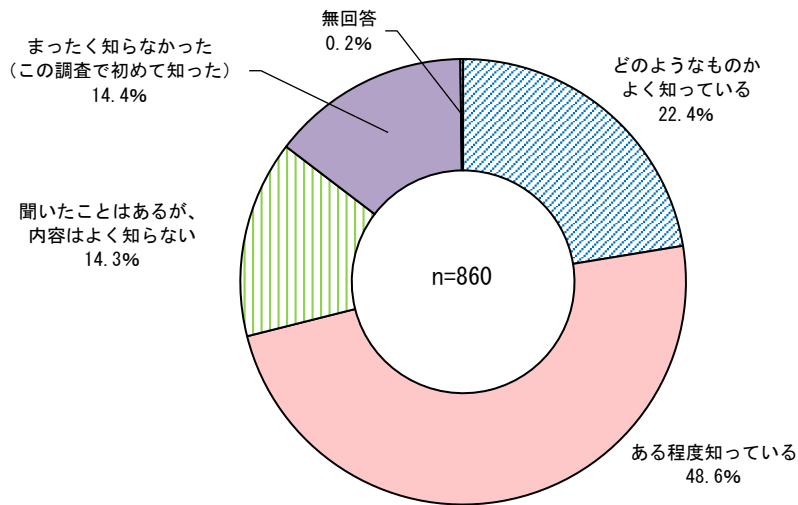


2 ケアラー支援について

問1 あなたは、「ケアラー」や「ヤングケアラー」という言葉をどの程度ご存じですか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「ある程度知っている」(48.6%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「どのようなものかよく知っている」(22.4%)、「まったく知らなかった(この調査で初めて知った)」(14.4%)の順となっている。

【圏域別】

「ある程度知っている」については、オホーツク連携地域(65.9%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(61.7%)となっている。「どのようなものかよく知っている」については、道北連携地域(29.6%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(28.3%)となっている。

【人口規模別】

「ある程度知っている」については、町村部(57.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(49.0%)となっている。「どのようなものかよく知っている」については、人口10万人以上の市(26.7%)が最も割合が高く、次いで札幌市(23.5%)となっている。

【性別】

「ある程度知っている」については、男性41.1%、女性54.9%となっており、「どのようなものかよく知っている」については、男性18.5%、女性26.2%となっている。

【年代別】

「ある程度知っている」については、30~39歳(53.7%)が最も割合が高く、次いで50~59歳(53.2%)となっている。「どのようなものかよく知っている」については、60~69歳(28.3%)が最も割合が高く、次いで40~49歳(25.1%)となっている。

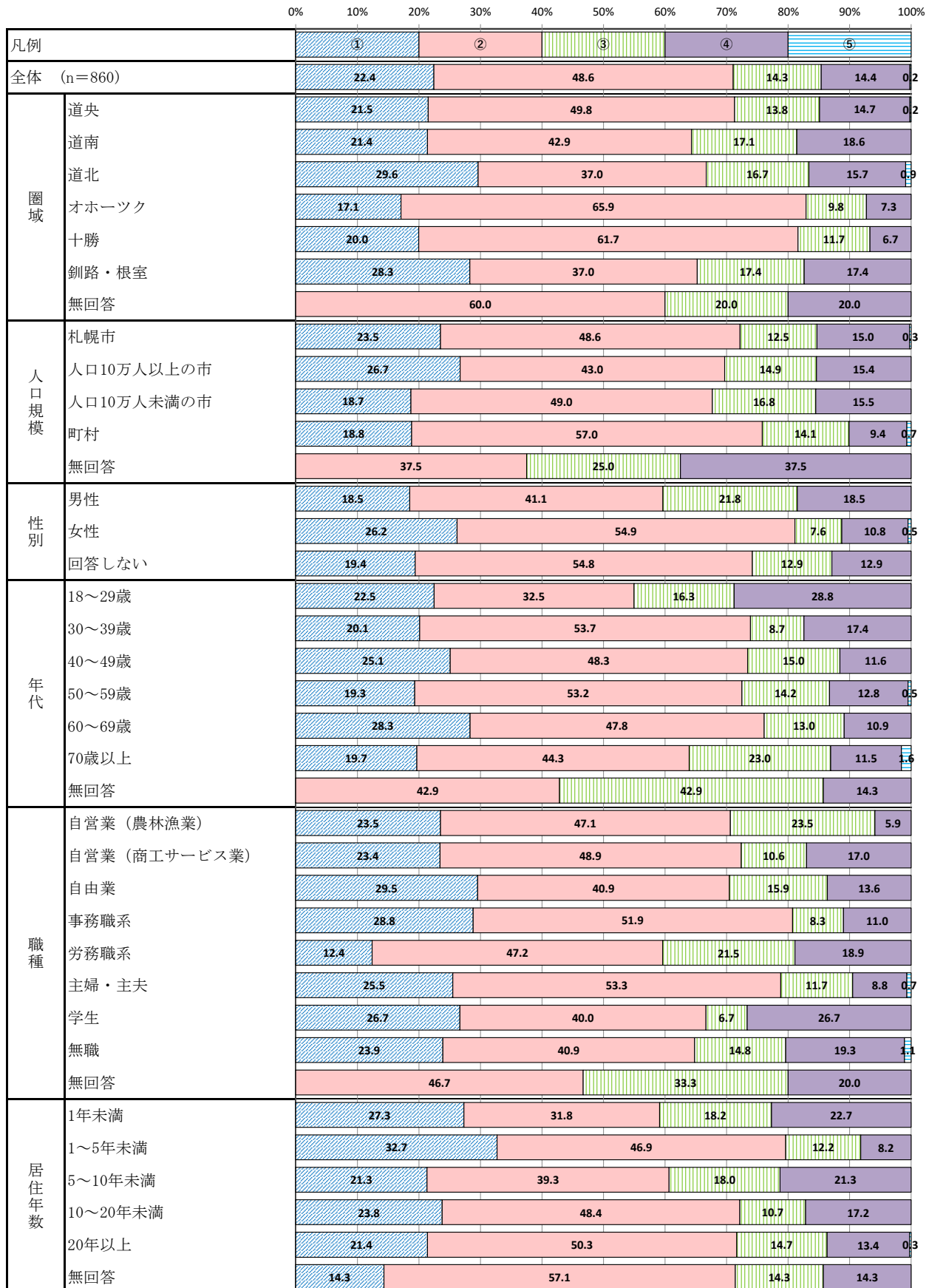
【職種別】

「ある程度知っている」については、主婦・主夫(53.3%)が最も割合が高く、次いで事務職系(51.9%)となっている。「どのようなものかよく知っている」については、自由業(29.5%)が最も割合が高く、次いで事務職系(28.8%)となっている。

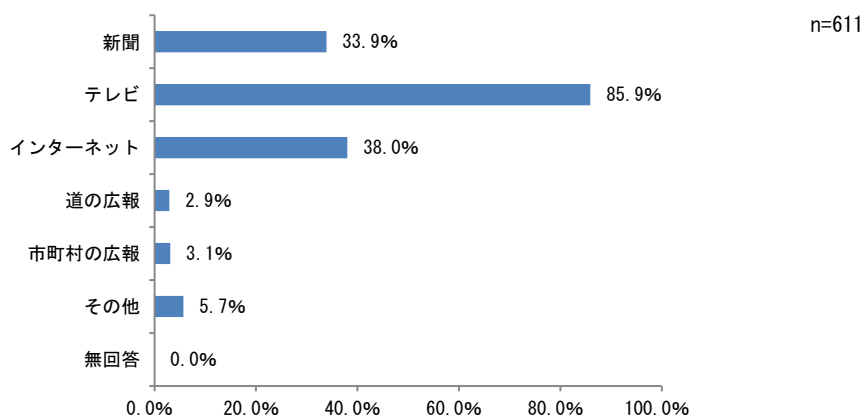
【居住年数別】

「ある程度知っている」については、20年以上(50.3%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(48.4%)となっている。「どのようなものかよく知っている」については、1~5年未満(32.7%)が最も割合が高く、次いで1年未満(27.3%)となっている。

- ①どのようなものかよく知っている ②ある程度知っている ③聞いたことはあるが、内容はよく知らない
 ④まったく知らなかった（この調査で初めて知った） ⑤無回答



問2 ※問1で選択肢「1 どのようなものかよく知っている」または「2 ある程度知っている」を選んだ方のみお答えください。
 「ケアラー」、「ヤングケアラー」という言葉をどのようにして知りましたか。
 次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビ」(85.9%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「インターネット」(38.0%)、「新聞」(33.9%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビ」については、道南連携地域(88.9%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(88.2%)となっている。「インターネット」については、釧路・根室連携地域(40.0%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域と道北連携地域(38.9%)が同率となっている。

【人口規模別】

「テレビ」については、人口10万人未満の市(89.5%)が最も割合が高く、次いで札幌市(86.9%)となっている。「インターネット」については、札幌市(42.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(38.1%)となっている。

【性別】

「テレビ」については、男性86.8%、女性85.8%となっており、「インターネット」については、男性36.6%、女性38.8%となっている。

【年代別】

「テレビ」については、60～69歳(96.2%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(94.9%)となっている。「インターネット」については、18～29歳(54.5%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(50.9%)となっている。

【職種別】

「テレビ」については、労務職系(93.5%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(88.9%)となっている。「インターネット」については、自由業(45.2%)が最も割合が高く、次いで事務職系(43.7%)となっている。

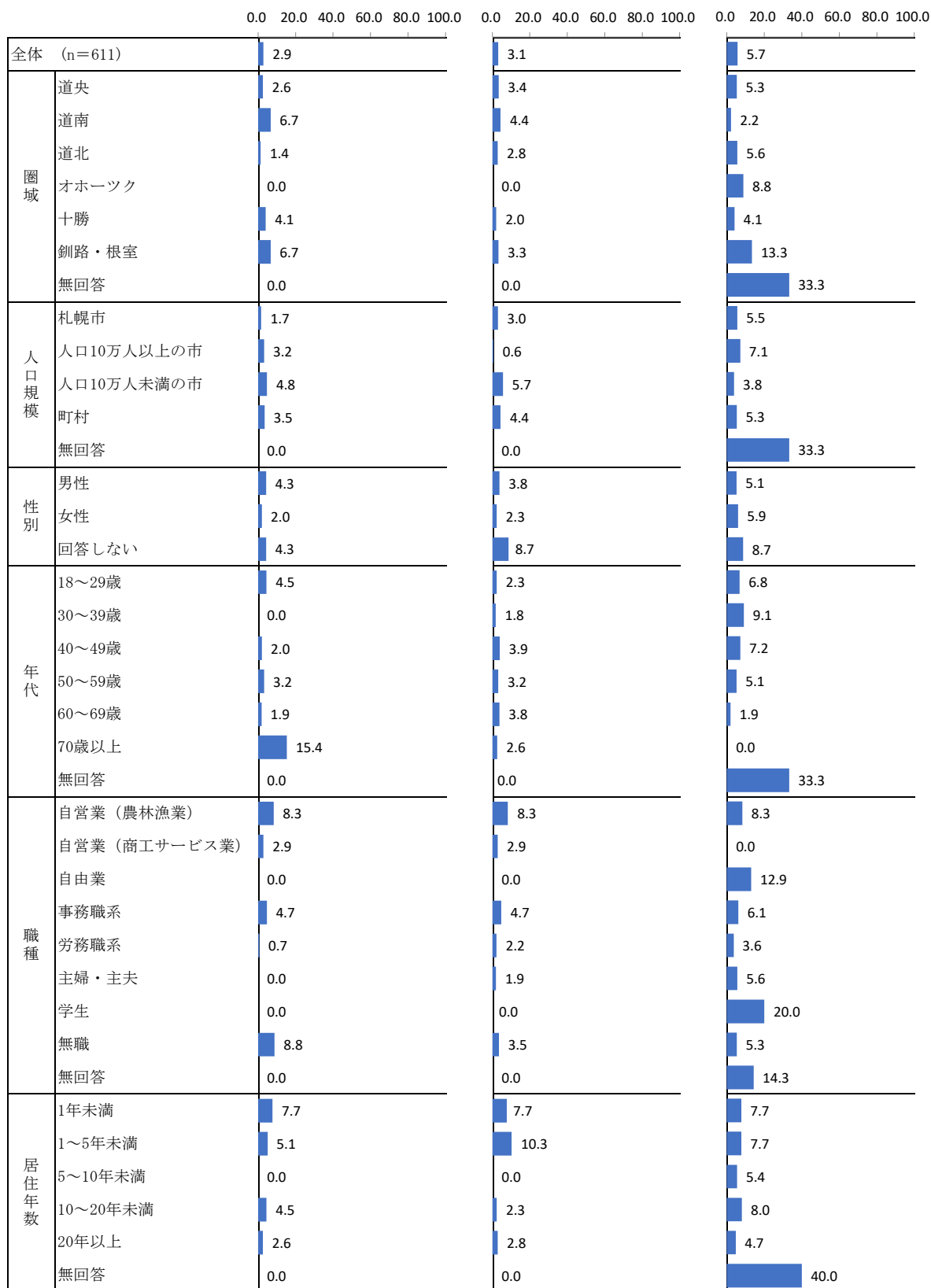
【居住年数別】

「テレビ」については、1年未満(92.3%)が最も割合が高く、次いで20年以上(88.6%)となっている。「インターネット」については、1年未満(61.5%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(46.2%)となっている。

道の広報

市町村の広報

その他

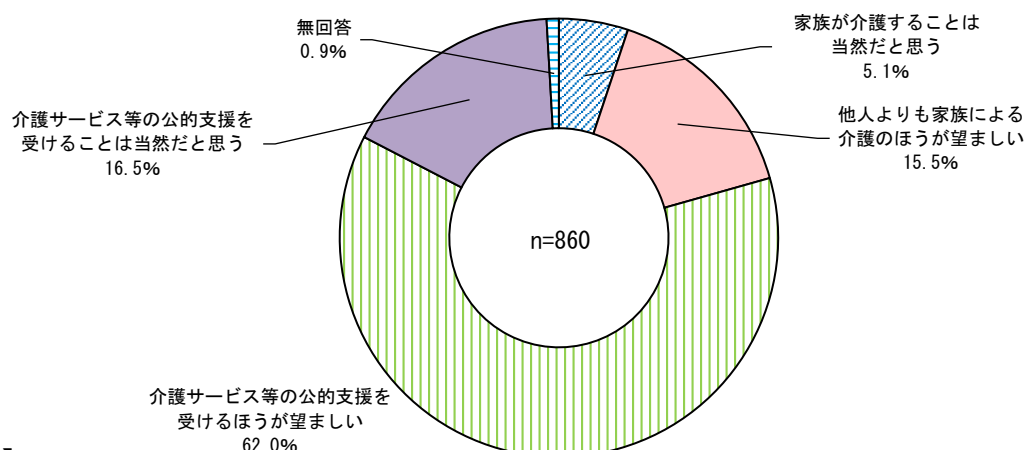


無回答

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

全体	(n=611)	0.0
圏域	道央	0.0
	道南	0.0
	道北	0.0
	オホーツク	0.0
	十勝	0.0
	釧路・根室	0.0
	無回答	0.0
人口規模	札幌市	0.0
	人口10万人以上の市	0.0
	人口10万人未満の市	0.0
	町村	0.0
性別	男性	0.0
	女性	0.0
	回答しない	0.0
年代	18～29歳	0.0
	30～39歳	0.0
	40～49歳	0.0
	50～59歳	0.0
	60～69歳	0.0
	70歳以上	0.0
	無回答	0.0
職種	自営業（農林漁業）	0.0
	自営業（商工サービス業）	0.0
	自由業	0.0
	事務職系	0.0
	労務職系	0.0
	主婦・主夫	0.0
	学生	0.0
	無職	0.0
	無回答	0.0
居住年数	1年未満	0.0
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	0.0
	10～20年未満	0.0
	20年以上	0.0
	無回答	0.0

問3 家庭において家族を介護することについて、どのようにお考えですか。
あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」（62.0%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う」（16.5%）、「他人よりも家族による介護のほうが望ましい」（15.5%）の順となっている。

【圏域別】

「介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」については、十勝連携地域（70.0%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（63.0%）となっている。「介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う」については、道北連携地域（20.4%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（19.6%）となっている。

【人口規模別】

「介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」については、札幌市（63.6%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（61.9%）となっている。「介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う」については、人口10万人未満の市（18.7%）が最も割合が高く、次いで町村部（16.8%）となっている。

【性別】

「介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」については、男性58.1%、女性65.5%となっており、「介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う」については、男性14.7%、女性18.2%となっている。

【年代別】

「介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」については、18～29歳（70.0%）が最も割合が高く、次いで50～59歳（64.2%）となっている。「介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う」については、30～39歳（23.5%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（17.4%）となっている。

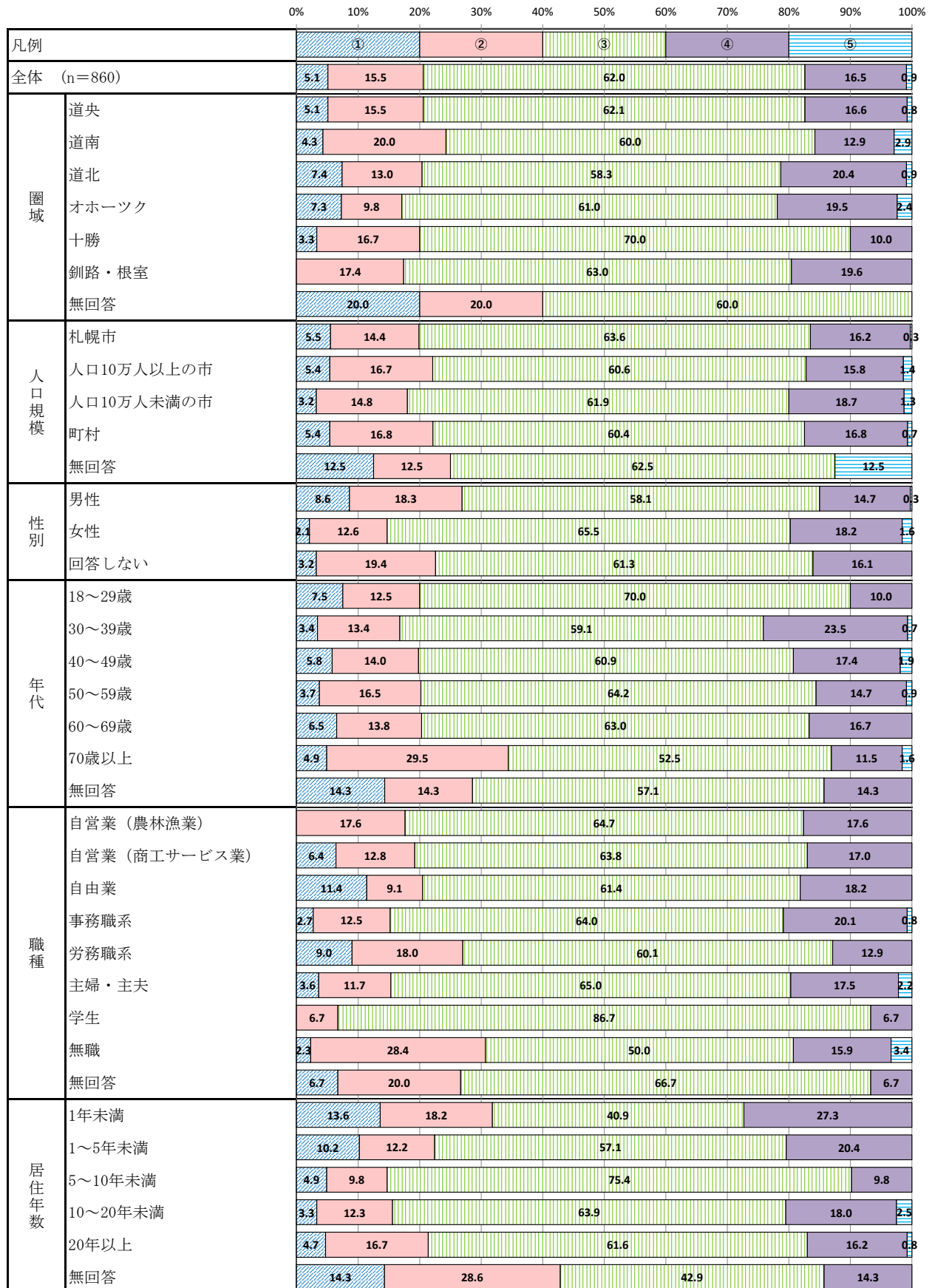
【職種別】

「介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」については、主婦・主夫（65.0%）が最も割合が高く、次いで事務職系（64.0%）となっている。「介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う」については、事務職系（20.1%）が最も割合が高く、次いで自由業（18.2%）となっている。

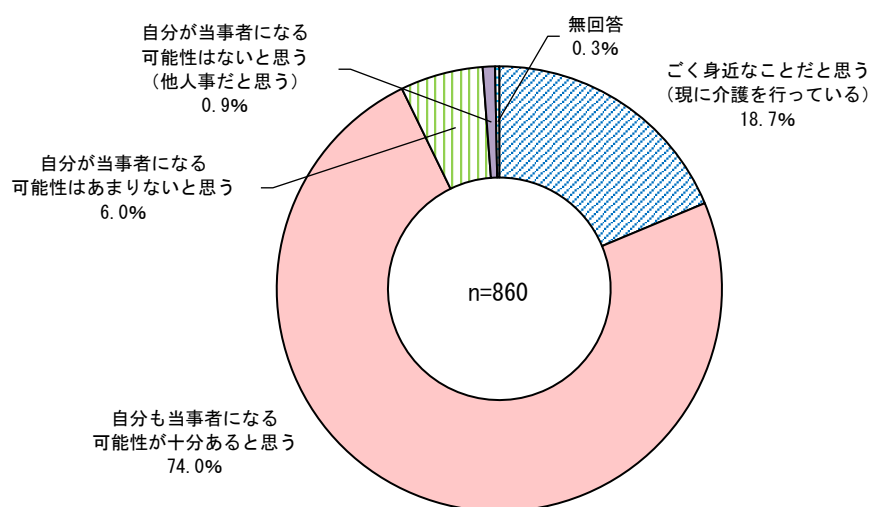
【居住年数別】

「介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」については、5～10年未満（75.4%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（63.9%）となっている。「介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う」については、1年未満（27.3%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満（20.4%）となっている。

- ①家族が介護することは当然だと思う
 ②他人よりも家族による介護のほうが望ましい
 ③介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい
 ④介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う
 ⑤無回答



問4 今後、家族を介護する当事者の立場になる可能性について、どのようにお考えですか。
あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「自分も当事者になる可能性が十分あると思う」(74.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「ごく身近なことだと思う (現に介護を行っている)」(18.7%)、「自分が当事者になる可能性はあまりないと思う」(6.0%)の順となっている。

【圏域別】

「自分も当事者になる可能性が十分あると思う」については、オホーツク連携地域(82.9%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(78.3%)となっている。「ごく身近なことだと思う (現に介護を行っている)」については、道北連携地域(24.1%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(21.7%)となっている。

【人口規模別】

「自分も当事者になる可能性が十分あると思う」については、札幌市(75.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(75.1%)となっている。「ごく身近なことだと思う (現に介護を行っている)」については、町村部(23.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(23.2%)となっている。

【性別】

「自分も当事者になる可能性が十分あると思う」については、男性75.4%、女性72.0%となっており、「ごく身近なことだと思う (現に介護を行っている)」については、男性17.5%、女性20.5%となっている。

【年代別】

「自分も当事者になる可能性が十分あると思う」については、18～29歳(83.8%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(82.0%)となっている。「ごく身近なことだと思う (現に介護を行っている)」については、50～59歳(29.4%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(27.5%)となっている。

【職種別】

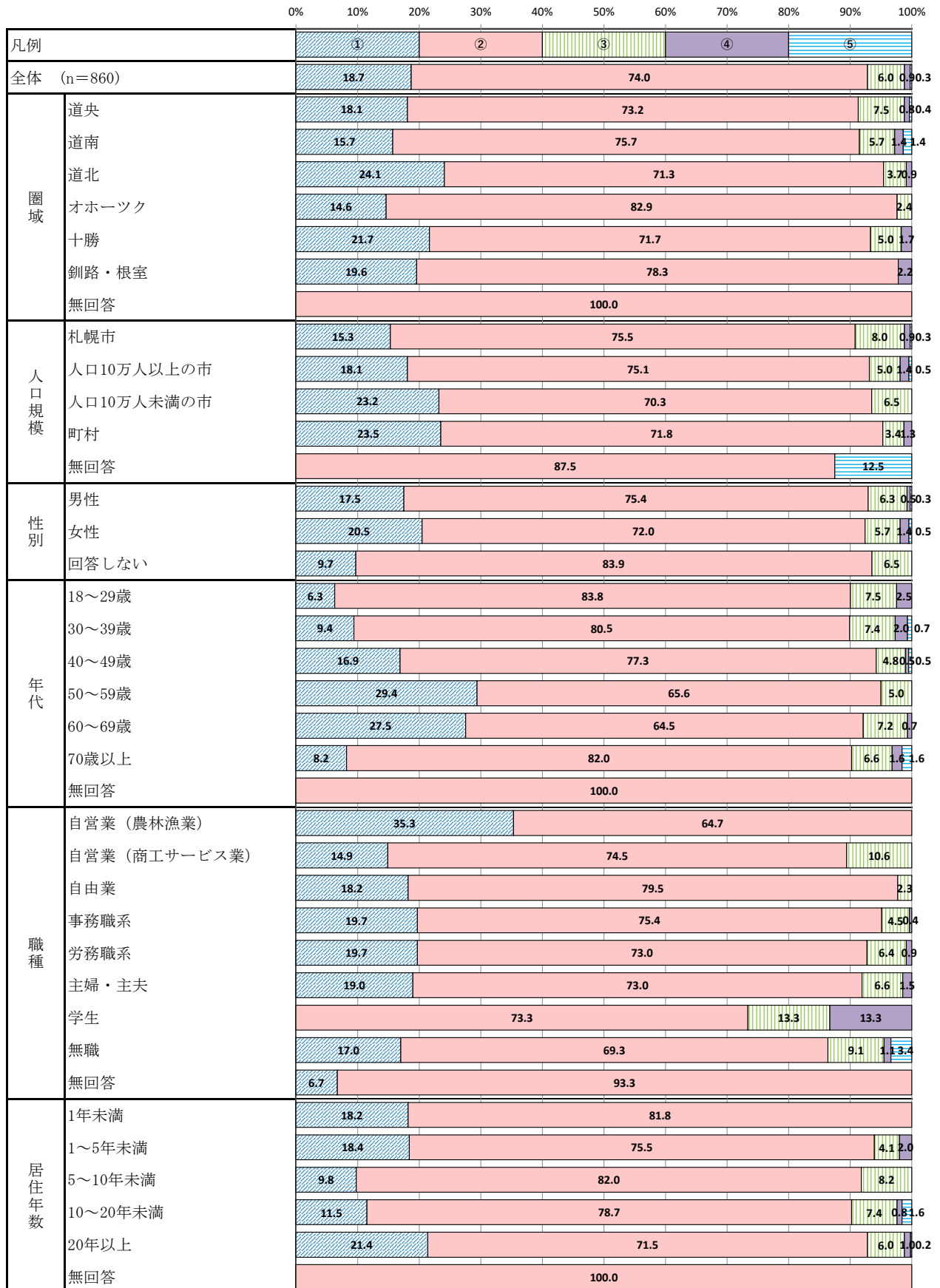
「自分も当事者になる可能性が十分あると思う」については、自由業(79.5%)が最も割合が高く、次いで事務職系(75.4%)となっている。「ごく身近なことだと思う (現に介護を行っている)」については、事務職系と労務職系(19.7%)が同率で最も割合が高く、次いで主婦・主夫(19.0%)となっている。

【居住年数別】

「自分も当事者になる可能性が十分あると思う」については、5～10年未満(82.0%)が最も割合が高く、次いで1年未満(81.8%)となっている。「ごく身近なことだと思う (現に介護を行っている)」については、20年以上(21.4%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(18.4%)となっている。

- ①ごく身近なことだと思う（現に介護を行っている）
 ③自分が当事者になる可能性はあまりないと思う
 ⑤無回答

- ②自分も当事者になる可能性が十分あると思う
 ④自分が当事者になる可能性はないと思う（他人事だと思う）



「ケアラー支援について」の調査を終えて

ケアラー（ヤングケアラーを含む。）の認知度は、「ある程度知っている」との回答が約5割となっており、「よく知っている」との回答と合わせると、約7割が認知している結果であった。

その認知経路は、テレビが8割を超えており、次いでインターネットと新聞が3割台となっている。年代別に見ると、最多回答のテレビには大きな偏りが無い一方で、インターネットについては、若年層ほど割合が高い傾向が伺える。

また、家族が介護することに対する意識は、「介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」とする回答が6割を超えており、「家族による介護のほうが望ましい」、又は「当然である」とする回答は合わせて2割程度となっている。

そして、自らが家族を介護する立場になる可能性に対する意識については、「当事者になる可能性が十分にある」とする回答が7割を超えており、「その可能性はあまりない」、又は「ない」とする回答は合わせて1割弱となっている。

今回の調査結果から、ケアラーという言葉自体はある程度知られているものの、どのような内容であるかを認知している割合は未だ低い状況にあることのほか、多くの方が「自らが家族を介護する立場になる可能性が高い」という意識を持っていることが把握された。

この結果について、今年度に策定することとしている「北海道ケアラー支援推進計画（仮称）」へ反映させるとともに、令和5年度から7年度までの計画期間において、ケアラー支援の正しい知識が一層広まるよう、効果的な普及啓発の取組を進めていく。

（保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課）